

株式会社夢工房 田中裕子

代表取締役 にお話を伺いました



学生:まず貴社の会社概要について教えてください。

田中氏:株式会社夢工房は、創業 35 年の、食と健康などに重きを置いたソフトウェアの開発・販売を行っている企業です(社員数 15 人)。「わくわく愉しく」をモットーに、満足度の高い充実のサポートとして、栄養指導ソフト・給食管理ソフトなどを、病院や給食センターなど様々な施設に提供しています。全国学校給食甲子園という給食の大会で、うちの会社のソフトを使っている自治体が活躍しており、大変嬉しいです。

学生:会社を設立したきっかけはなんですか。

田中氏:1980 年代は、大手企業に勤めていた理系学部を卒業した女性も、結婚・出産・育児によって仕事を辞める時代でした。女性も辞めずに仕事を継続できる会社を自分で立ち上げようと考えました。

～働き続けられる会社づくり～

学生:なぜ、女性が働き続けられる会社を起業しようと思ったのですか。

田中氏:仕事を休職してアメリカで過ごした 2 年間に、子育てや仕事から離れた女性に少しの時間でも働くことでやりがいを見つけてもらえる場が大切だと考えたからです。「結婚しても出産しても働き続けられる会社を」という思いで設立しました。1993 年にソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤーを受賞したのが、発展の契機になりま

した。

学生:現在、管理職における女性割合はどのくらいですか。

田中氏:66%です。

学生:多いですね。働くうえで大事にしていることはなにか教えてください。

田中氏:こんな製品を創りたい！こんながあれば、便利になるだろう！喜んでもらえる！といったイメージをどんどん膨らませて、いいモノづくりに燃えてほしいです。モノづくりの原点は、わくわく心躍らせながら新しいことに挑んでいくことだと思っています。お披露目した時に、「わあ！すごい！これからラクになる！」と感動してもらえ喜びを常に感じてもらいたいです。

学生:やりがいを感じる瞬間や働きやすいと実感する時を教えてください。

岩本博美氏(統括マネージャー):会社の売上に貢献していると実感できるときです。ソフト導入で自治体などにプレゼンしたり、他社と競うことが多いですが、自社製品の良さを相手に伝えられた時が嬉しいです。

秋田ゆふ氏(販売促進マネージャー):愛着のある製品をつくれるのは、製品開発に携わる者として嬉しいことです。また、職場の風通しが良く、子育てや介護、体調などに合わせた働き方ができるのも、とてもいいです。

～働き方改革は制度だけでなく風土が大切～

学生:働き方改革についての考えを教えてください。

ください。

田中氏:働き方改革は**制度だけではなく風土が大切**であり、やりがいや仕事、課題に対するプロとしての取り組み方や思いを社員と共有したいと思っています。

～男女問わず「誰もが」活躍できる～

学生:具体的にどのような点で女性活躍や働きやすい職場が実現しているのですか。

田中氏:個々のライフスタイルに合わせて柔軟に対応できる完全フレックスタイム制をはじめ、多様な働き方が当たり前の社風となっています。

育児休業は、取得時期や期間をあえて定めず、男性も親の介護をしながら継続して働くことができるなど、**男女問わず「誰もが」活躍**できます。また、すべてサイボウズのクラウド上でスケジュール管理でき、携帯とも連携しているので、急な勤務変更なども気軽にできるようになっています。

学生:良好な職場環境づくりのためにやっていることはありますか。

田中氏:社員の意見を吸い上げるため、半月に1度「職場意識改善委員会」を実施し、問題点や課題の有無についての検討、問題点がある場合には改善のための取り組みの検討や実施に努めています。

学生:働き方について今後の目標はありますか。

～育児や介護だけでなく趣味との両立も～

田中氏:社員数が少ないため、仕事のしわ寄せが生まれて負担が偏ったりすることがないように、仕事と育児や介護との両立だけでなく、趣味等とも両立できるよう、互いに許容できる働き方を目指しています。

学生:これからへ向けての課題を教えてください。

田中氏:今後の課題は、会社の承継をしなければならぬことです。かつてみられた「親族内継承」も、今日では減少しており、多くの企業がこの問題に直面しています。事業を承継するときはある程度の資金をもっていることが必要であるため、返金しなければならない融資ではなく、投資家による投資がベンチャー企業に対して積極的に行われるように、国全体で取り組む必要があると考えています。

学生:最後に、学生たちへのメッセージをお願いします。

田中氏:インタビューを受けて、こちらも、気づいてなかった会社のいいところや課題に気づきました。これを機に、いい企業がたくさんありますので、神戸市内の企業にさらに関心をもっていて、地元就職したい、住みたいと思っていただくことを願っています。

学生:社会全体に視野をおきながら、社会のために役立つ仕事づくり、多様な人がやりがいをもって働ける職場づくりに力を注いでこられたお話を伺い、働くということについて深く考える機会となりました。ありがとうございました。

(神戸学院大学現代社会学部 2021 年度
清原桂子ゼミ4年次生:桑形、津本、花田、
政井、内藤、永田、久野、大内、光吉、川端、
正岡、阪本、森本)

